

第二次瑞浪市環境基本計画(後期)施策進捗状況

基本目標	基本施策	具体的施策	数値説明	担当課	実績値(平成30年度は見込み)			目標値(平成35年度)		進捗状況
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	旧	新	
1 瑞浪市の風土の基盤である里地・里山や河川等水辺の維持・保全を図ります	① 里山の保全と活用	鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律に基づく被害防止計画を策定し、鳥獣被害対策実施隊による加害鳥獣の駆除を行います。	年間被害額	農林課	116.1万円/年	112万円/年	102万円/年	0円/年		ワイヤーメッシュの材料支給を行い、毎年10万円ずつ被害額を減らす計画。来年度もワイヤーメッシュの申し込みが多くあるため、被害額は減少する見込み。
		被害防止計画 駆除頭数	農林課	700頭/年	681頭/年	678頭/年	700頭/年		鳥獣被害対策実施隊により捕獲されたイノシシは毎年700頭弱で推移している。ただし、平成31年度は豚コレラの影響もあり、捕獲頭数がどのように響くかは未定。	
	② 食と生命を支える農地の保全と修復	農産物等直売所出荷登録者数を増やします。	登録者数	農林課	189人	190人	195人	230人		野菜づくり塾や地域の勉強会を通じて生産者を増やし、登録者数の増加を図っている。
		優良農地の現状を維持若しくは面積を増やします。	ほ場整備面積	農林課	389.0ha (累計)	395.24ha (累計)	400.00ha (累計)	406.5ha (累計)		岐阜県が実施主体となり、鶴城ほ場整備が実施されており、平成32年度を最終年度とし順調に施行されている。
	③ 地域の水循環の保全と修復	所有する森林に対する補助事業等を活用し、間伐等の整備を行います。	間伐面積	農林課	556.27 ha (累計)	672.08ha (累計)	781.98ha (累計)	766.27ha (累計)	800.00ha (累計)	ぎふ森林環境税の伐採事業や、林業経営者による間伐が行われており、目標を達成する見込み。
ため池整備事業を活用した農業用ため池の整備を行うとともに、災害防止のため、利用のなくなったため池の廃止を行います。		整備及び廃止件数	農林課	廃止措置 未実施	0箇所	0箇所	未利用ため池の調査結果に基づき平成31年度以降順次廃止		受益のないため池を調査中です。	
④ 多様な動植物の生息・生育環境の保全と創出	生物多様性の保全のため、特定外来生物の調査や駆除を行います。	オオキンケイギク 駆除重量	環境課	90kg/年	190kg/年	970kg/年	150kg/年	1,500kg/年	駆除後の乾燥状態によって重量が大きく変わってしまう。駆除面積で比較すると、平成29年度は767㎡であり平成30年度は800㎡であった。公共用地等の駆除が中心となっているため、広報等による駆除啓発を行うことで、民間エリアの駆除拡大を図る。	
2 市民一人ひとりが環境に配慮し行動することで、生活の質の向上につなげます	① 循環型社会づくりの推進	資源ごみリサイクル率の向上に努めます。	リサイクル率	クリーンセンター	21.20%	20.80%	20.30%	26.00%		平成28年度と比較して、平成29年度は0.4ポイント、平成30年度(見込み)は0.9ポイント減少している。減少の理由としては、災害による廃棄物量の増加及び集団資源回収の回数の減少に伴う量の減少等が考えられる。現在は、特に家庭ごみにおいて、紙類など資源化できるごみが混入されている状況であり、今後は分別の周知徹底に努め、リサイクル率の向上を図る。
		可燃ごみ・不燃ごみ処理量の削減を進めます。	焼却量	クリーンセンター	10,499t/年	10,350t/年	10,626t/年	10,000t/年		平成28年度と比較して、平成29年度は144t減少しているが、平成30年度(見込み)は127t増加している。増加の理由としては、家財整理に伴う高齢者世帯等の個人持込量が増加している。
			埋立量	クリーンセンター	2,185t/年	2,486t/年	2,281t/年	2,000t/年		平成28年度と比較して、平成29年度は301t、平成30年度は96t増加している。増加した理由としては、災害廃棄物及び事業所持込量が増加したことが考えられる。
	使用済小型家電回収品目の拡充をします。	回収品目	クリーンセンター	15品目	22品目	22品目	23品目		平成28年度と比較して、平成29年度は携帯電話端末とパーソナルコンピュータの2品目を拡充し、9品目となった。平成30年度は、さらに13品目を拡充し、22品目となった。平成35年度には23品目以上となる見込み。	
	② エネルギー循環の効率化	公共施設におけるCO2削減に努めます。	削減率	環境課	△3.4 (平成25年度比)	増2.7%	—	△10.0% (平成25年度比)		公共施設におけるCO2排出割合の3割程度は、クリーンセンターにおける一般廃棄物の焼却が占めている。平成29年度においては、一般廃棄物の焼却量が24.8%の増加となっており、全体の削減率に影響している。今後の対策として、市民や事業者に対し、一般廃棄物の排出量の抑制啓発を行う。
③ 水質浄化対策の推進	水洗化率の向上に努めます。	水洗化率	上下水道課	81.24%	82.20%	83.50%	90.00%		検針の際に、下水道への接続や合併処理浄化槽への転換を直接お願いすると同時に、広報等でも呼びかけを行っている。また、合併処理浄化槽の設置に対する補助金について、国の補助基準額に上乗せする形で促進している。	
④ 健全な生活環境の保全対策の推進	空き家・空き地バンクが活用されるよう努めます。	成約件数	市民協働課	29件(累計) ※平成28年度末 累計(登録件数 43件)	38件(累計)	42件(累計)	100件(累計)		瑞浪市空き家・空き地バンク制度における平成29年度成約数8件(登録申請24件、利用申込19件)。平成30年度成約数4件(登録申請24件、利用申込10件)※平成30年度はいずれも見込数。 平成31年2月22日時点の成約物件を含めた登録物件は76件。当制度の更なる活用のため、市HPでの物件紹介を始め、全国版空き家・空き地バンクへの登録、固定資産税納税通知書にチラシ同封をしている。また、各種移住イベントにおいても制度の紹介を行っている。	

第二次瑞浪市環境基本計画(後期)施策進捗状況

基本目標	基本施策	具体的施策	数値説明	担当課	実績値(平成30年度は見込み)			目標値(平成35年度)		進捗状況
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	旧	新	
3 瑞浪市らしい、風土を活かし人とのふれあいができる文化環境を創出します	② 瑞浪市らしい地域資源の保全と活用	中山道(大湫宿含む)に関する観光に取組めます。	ボランティアガイド利用者数	商工課	1,131人/年	2059人/年	1950人/年	4,500人/年		前年度と比較して、平成30年度は5%と減少している。減少した理由としては、中山道のウォーキングイベントの参加者数の減少が考えられる。ウォーキングイベントや、中山道17宿歩き旅の内容等をブラッシュアップし、参加者の増加を図る。
		市内の指定文化財の指定件数の増加に努めます。	指定件数	スポーツ文化課	106件(累計)	107件(累計)	106件(累計)	120件(累計)		平成30年12月に市指定文化財(地歌舞伎衣装)2件が一括して県の文化財に指定されたことにより、指定件数は1件減少となった。平成31年度中には、国1件、市2件の合計3件程度の文化財指定がなされる見込み。
	③ 愛着のあるふるさとづくりの推進	文化施設・歴史案内等ボランティアによる講座等の開催により、市民が地域の歴史・文化と親しむ機会の創出に努めます。	ボランティアガイド登録者数	商工課	29人	22人	21人	65人		ボランティア登録者数に大きな変動はない。事務局(地域交流センターときわ)、かたりべの会(スポーツ文化課)と連携し、情報提供を行う等ボランティアガイドの増加を図る予定。
4 市民の誰もが参加でき、継続性のある計画の推進体制を実現します。	① 行政と市民との協働体制の整備	里親制度による、公共施設の美化、保全活動を行う市民活動団体に対する支援を行います。	都市公園登録団体	都市計画課	18団体	17団体	18団体	23団体		平成28年度と比較して、平成29年度は5.6%減少、平成30年度は増減率0%であり、平成35年度には微増の見込み。登録団体数が横ばいの理由としては、新規の登録もあるが、高齢化等による登録の辞退が考えられる。平成31年度に市ホームページ等で新規登録団体を募集し、改善予定。
		市道登録路線	土木課	131路線	124	156	132路線		平成30年度は日吉区長会で里親制度の紹介やPRチラシの作成を実施した。平成28年度と比較して平成29年度は12路線減少したが、平成30年度は32路線増加している。今後は支給品、貸与品の拡充をすることで、登録路線数の増加を目指す。	
	② 環境教育・体験学習の推進	環境学習の機会創出に努めます。	環境学習実施回数	環境課	10回/年	9回/年	3回/年	13回/年		天候不良により環境に関する野外授業の実施回数が減少している。出前講座については、環境課から自治会や学校に開催の提案を行い実施回数の増加を目指す。
		環境フェアみずなみを開催することで、市民の環境意識の向上に努めます。	入場者数	環境課	600人/回	700人/回	550人/回	1,600人/回		来年度以降は、他の催事との共催や参加型のイベントを増やすことで、参加者の増加を目指す。
		自然観察会を開催します。	開催件数	スポーツ文化課	9回/年	9回/年	5回/年	10回/年		観察会は、主に自然ふれあい館(竜吟の森)にて実施。自然ふれあい館での講座数は年15回程度と大きな変化は無いが、幼児園等への出前講座増加に伴い自然観察会の開催数が減少している。
③ 事業所の環境保全意識の向上	事業所に起因する悪臭や水質汚濁等の苦情に対し、原因及び対策に対する啓発と指導を継続していきます。	苦情件数	環境課	2件/年	6件/年	5件/年	0件/年		苦情件数の原因者が環境基準を超過している事案はないが、臭気や騒音などの感覚公害は、人によって感じ方が違うため、苦情件数に大きく影響している。	